



Title	Design, Development, Delivery, and Evaluation of an EGAP (English for General Academic Purposes) Blended Course for Japanese University Students
Author(s)	Mehran, Parisa
Citation	大阪大学, 2019, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/72605">https://doi.org/10.18910/72605</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 論文内容の要旨

氏名 ( Mehran Parisa)	
論文題名	Design, Development, Delivery, and Evaluation of an EGAP (English for General Academic Purposes) Blended Course for Japanese University Students (日本人大学生のためのEGAP(一般学術目的の英語)ブレンド型コースの設計、開発、配信、評価)

## 論文内容の要旨

The rapid advances of technology have revolutionized the way people live including the way they teach and learn. Education has thus undergone a drastic change in recent years, and the adaptation to the ever-changing world of technology in educational settings is inevitable. In today's world, the use of English has also increased in popularity as a result of globalization. Hence, there has been an increasing interest in Computer Assisted Language Learning (CALL) in ELT. Among the array of CALL trends, online education has lately gained momentum, and has quickly become a widespread mode of instruction. Japan as a leading high-tech context has recently been involved with digital technology in educational contexts as well, and one of the goals of the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) has been to implement ICT in education to promote students' digital literacies.

In response to the need for more online education opportunities, this study aimed to construct an EGAP (English for General Academic Purposes) blended course for Japanese learners of English at Osaka University using the Successive Approximation Model (SAM) proposed by Allen (2012). Based on a thorough needs analysis and e-readiness assessment, the course was designed and developed guided by theoretical frameworks and models for online course design. Using the affordances of online environment, novel approaches to English language teaching were practiced. With regards to the blended part of the course, Augmented Reality (AR) was utilized to transform the learning process. After the implementation phase, the experiences, perceptions, and engagement level of Japanese EFL learners were explored, and the quality of the course was also evaluated using the Quality MattersTM (QM) Higher Education Rubric. In general, the results indicated that students had positive perceptions of the blended course regarding its usefulness and quality. The outcomes of the study had significant implications for online/blended course design and implementation, and the effective evaluation of online/blended experiences.

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 ( MEHRAN Parisa )		
	(職)	氏 名
論文審査担当者	主査	教授 竹村 治雄
	副査	教授 尾上 孝雄
	副査	教授 小口 一郎 (大学院言語文化研究科)
	副査	講師 白井 詩沙香

## 論文審査の結果の要旨

本論文は e-Learningシステムを用いたオンライン授業と対面授業を組み合わせたブレンド型授業のデザインから評価までの実践研究をまとめたものであり、日本人大学生向けに一般学術英語を教育するための授業法においてデザイン、開発、教材の使用、教材の評価から得られる一連の知見を研究として取りまとめたものである。本邦においては、従来のこのような授業開発と評価が、開発者の個人的なアイディアや経験によりおこなわれ、完成された教授法についても体系的な評価もほとんど行われていないのに対して、本論文では広範な関連研究の調査に基づいて学習者のニーズ分析に加えて、学習者のオンライン教材の利用に関する準備状況の調査を行い、これらの知見に基づいて e-Learning授業を開発し、日本人学生向けのブレンド型授業として実際に実施し、同時にその成果の客観的評価を実施している。本論文の主な成果としては、次の三点が認められる。

第1には、教育法のデザイン手法について調査研究を実施し、ADDIE (Analysis, Design, Development, Implementation, Evaluation) モデルでデザインされることが多かったが、近年提唱されたSAM(Successive Approximation Model)を用いて、デザインを実施している点である。SAMは繰り返しデザインを基本としてコースを設計する手法で、ソフトウェア開発でのアジャイル開発モデルとも共通した考え方に基づくものである。この開発モデルの導入により、限られた時間の中で、一定の品質の教授法を開発できることが確認された。

第2には、SAMによる教材開発のプロセスの一環として、日本人学習者のオンライン学習の準備状況についての予備調査である、e-Readiness評価を実施した。その結果、調査対象の日本人大学生はスマートフォンをはじめとする機器の利用には長けているが、これらを用いた情報の加工や発信には不慣れなこと。インターネットの利用時間は長いが、スマートフォンによる利用が大半であり、パソコン用コンピュータの利用時間は1日2時間以下に限定されていること、タッチタイピングによる文字入力ができる学習者は半数以下であることを明らかにし、これらの調査結果をSAMを用いた授業デザインプロセスに取り入れている。具体的には、教材を可能な限りスマートフォン対応とする、タイピング能力に個人差があることを考慮した課題を設計するなどの工夫を行っている。

第3には、実際に教材を利用した授業を実施し、質問紙を用いた学習者からの評価を収集し分析している点である。実際に80%超える学習者が本コースが学習者の要求に合致しており、学習者にとって有益であると回答している。また、学習者に対しての教材の指示の理解が困難と答えた学習者は無く、SAMによるデザイン手法が適切な授業法の開発につながっていることを示している。これらは、体系だったオンライン教育デザインモデルの確立に着実に寄与する内容である。

これらの成果は、それぞれ専門学術論文誌やトップカンファレンスに採録されている。また、一連の研究を通じて今後の情報技術を用いた教材デザインのプロセスに関しても大きな知見を得ることができている。

以上のように、本論文は今後さらに利活用が進むと期待されるブレンド型のe-Learning授業の設計に重要な成果を挙げた研究として、情報科学および言語教育学の進展に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士（学術）の学位論文として価値のあるものと認める。